



2019年12月期

第2四半期決算説明

2019年8月9日

SBSホールディングス株式会社

■ 目次

■ 2019年度12月期 第2四半期決算概要 及び 通期の見通し

■ 2019年度 グループ経営について

2019年12月期 第2四半期決算概要 及び 通期の見通し

執行役員財務部長 遠藤 隆

19年6月期 連結業績(対前年同四半期) 2

(単位:百万円)

	18年度2Q		19年度2Q			
	実績値	構成比	実績値	構成比	増減額	増減率
売上高	77,178	100%	126,944	100%	49,765	64.5%
営業利益	2,337	3.0%	5,547	4.4%	3,209	137.3%
経常利益	2,233	2.9%	5,472	4.3%	3,238	145.0%
当期純利益	1,221	1.6%	3,356	2.6%	2,135	174.8%

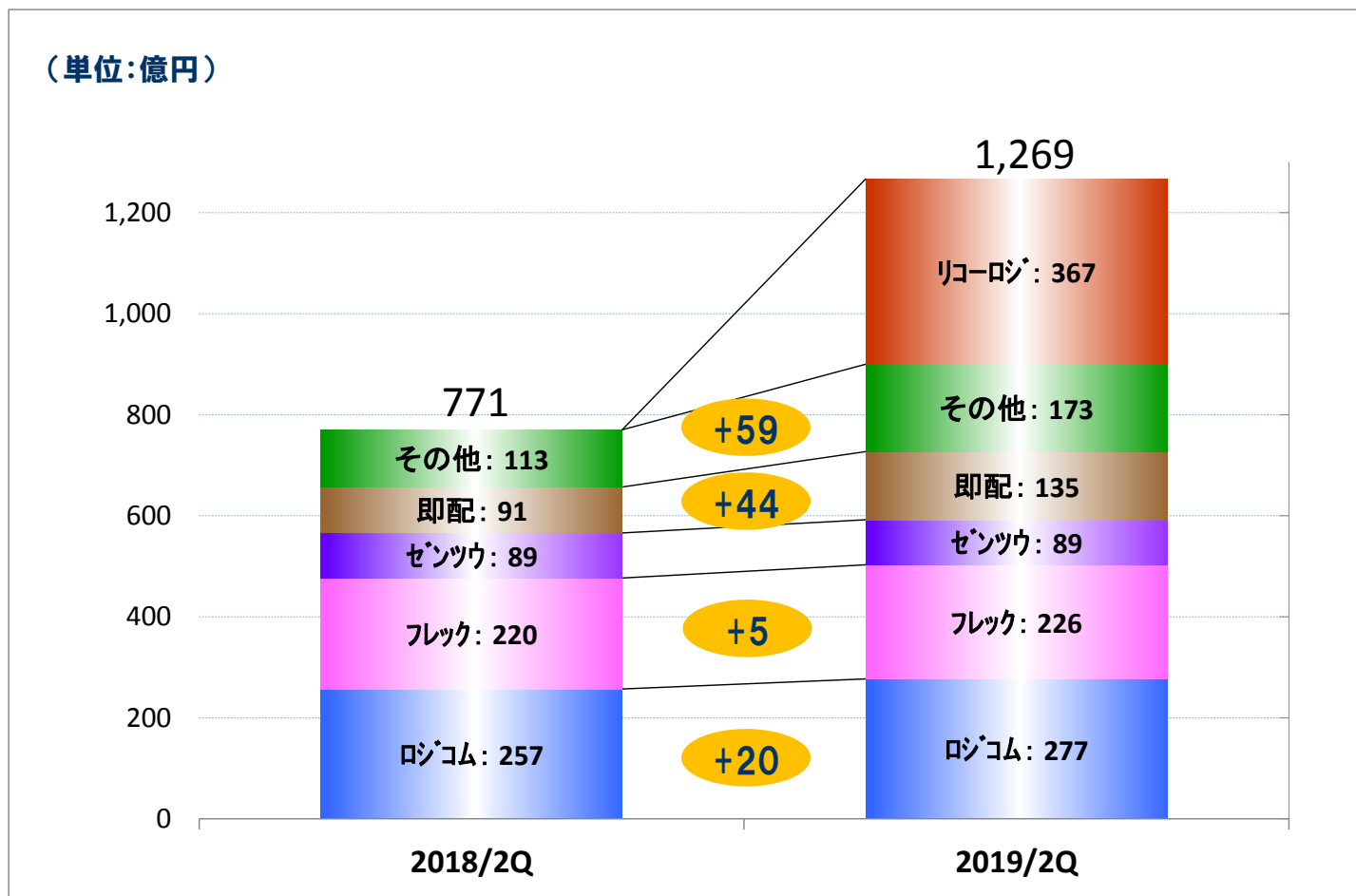
19年6月期 連結業績(対予想比)

3

(単位:百万円)

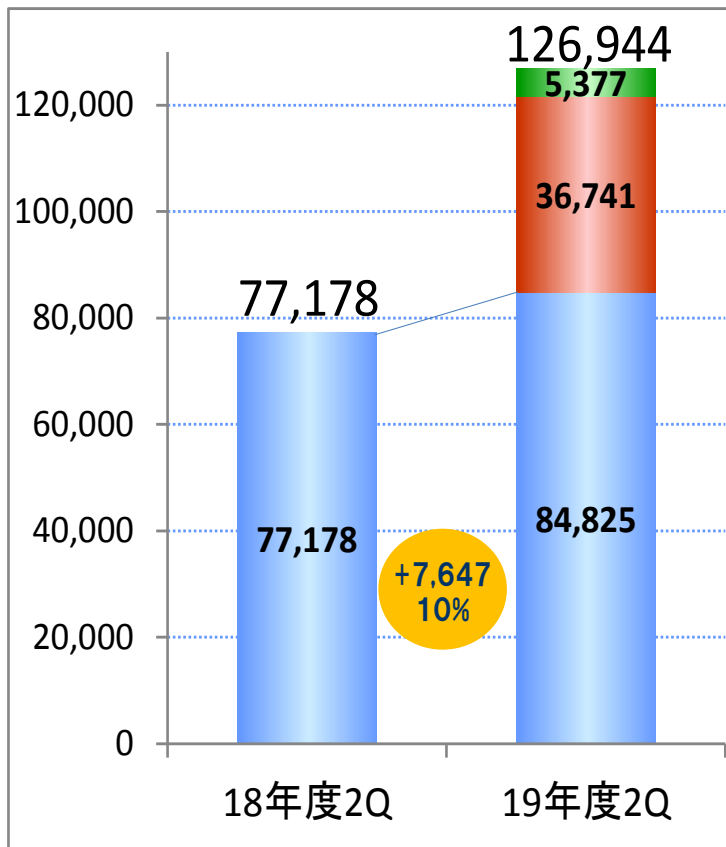
	19年度2Q					
	予想値	構成比	実績値	構成比	差異額	達成率
売上高	124,000	100%	126,944	100%	2,944	102.4%
営業利益	4,800	3.9%	5,547	4.4%	747	115.6%
経常利益	4,500	3.6%	5,472	4.3%	972	121.6%
当期純利益	2,600	2.1%	3,356	2.6%	756	129.1%

主要会社の売上イメージ

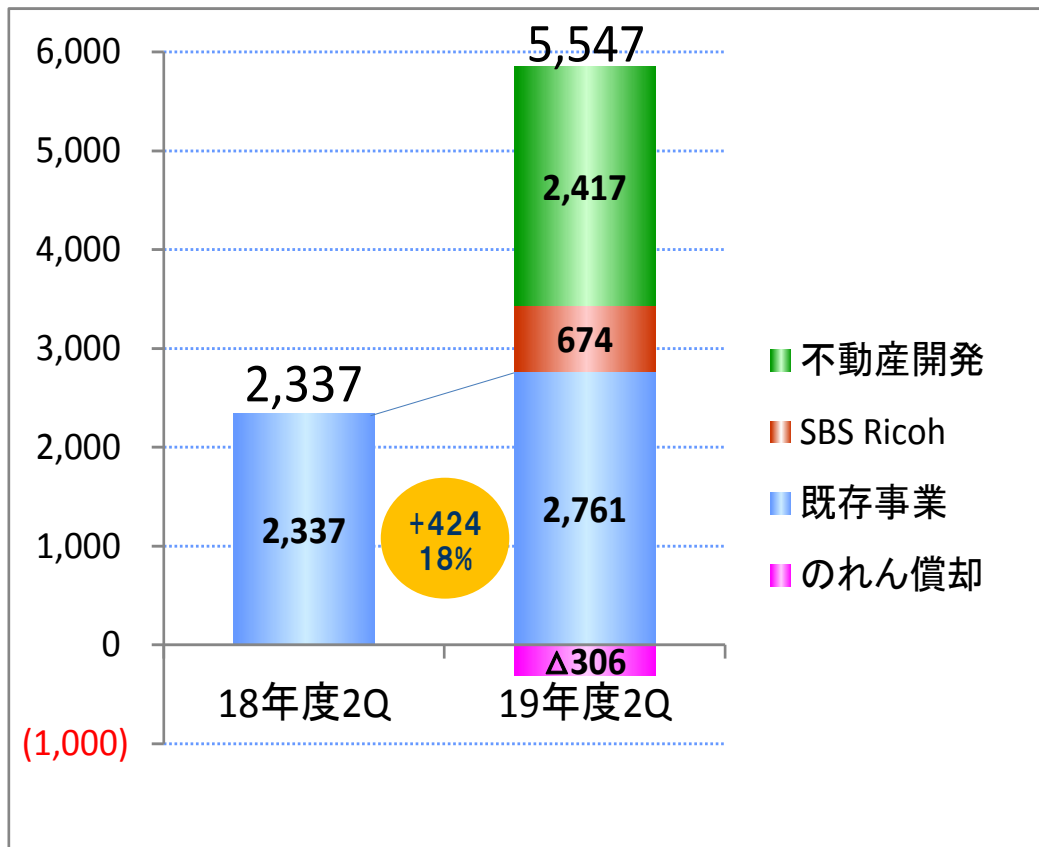


※ 2019年6月期は不動産開発事業で流動化が1件あったためにその他が増加しています。

連結売上高 (単位:百万円)

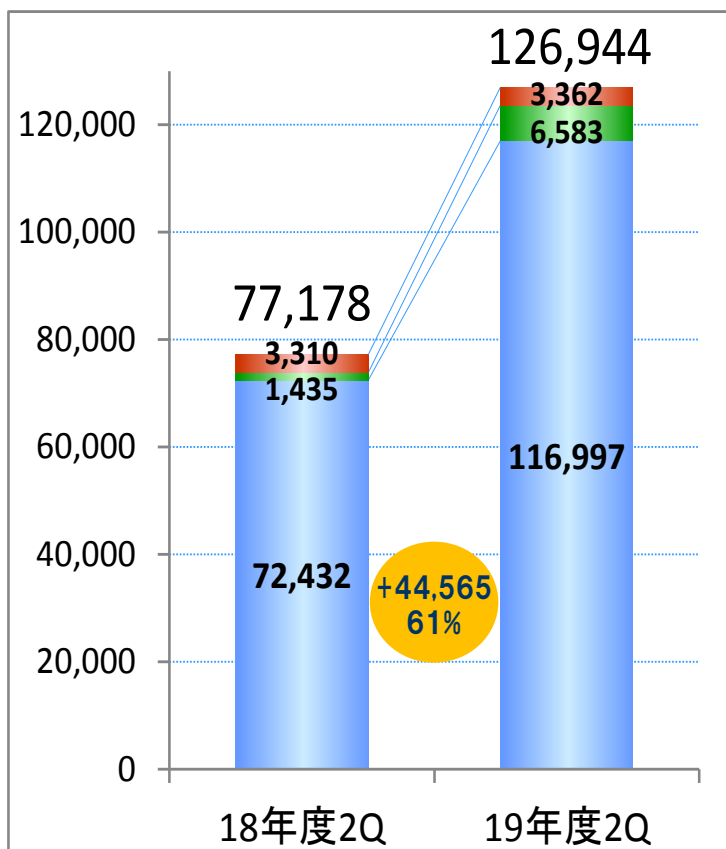


連結営業利益 (単位:百万円)

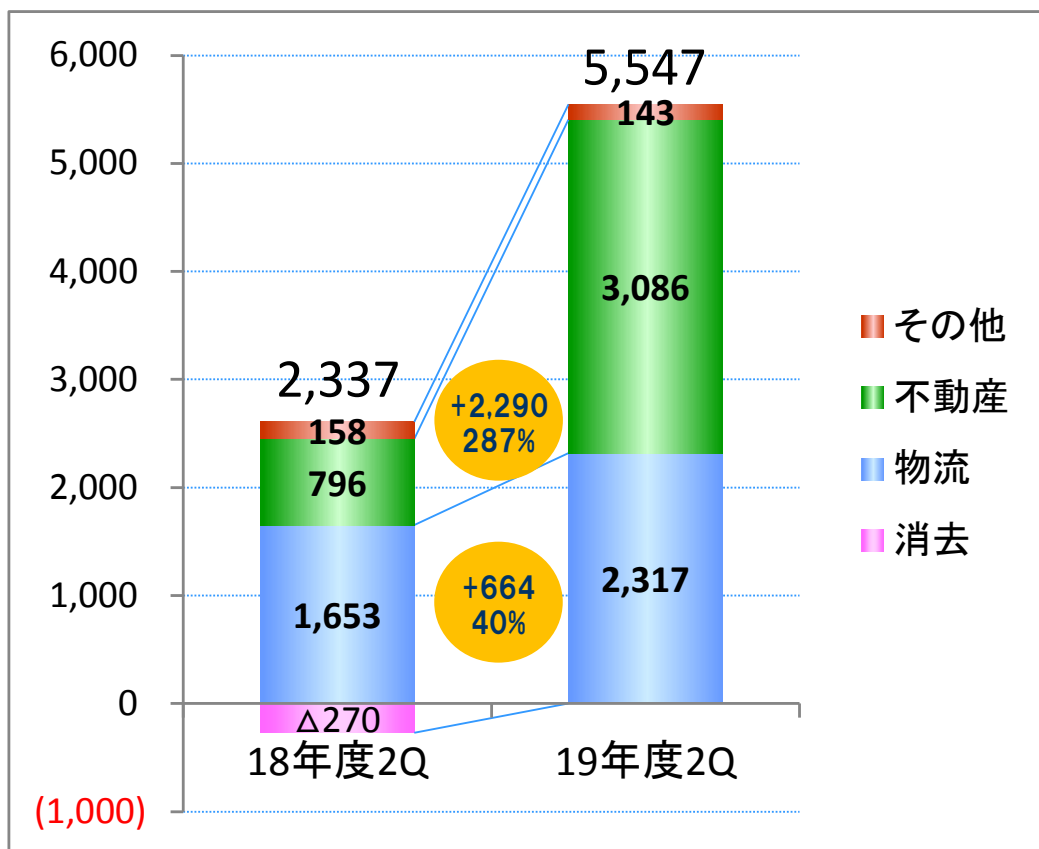


セグメント別業績(対前年同期比)

連結売上高 (単位:百万円)

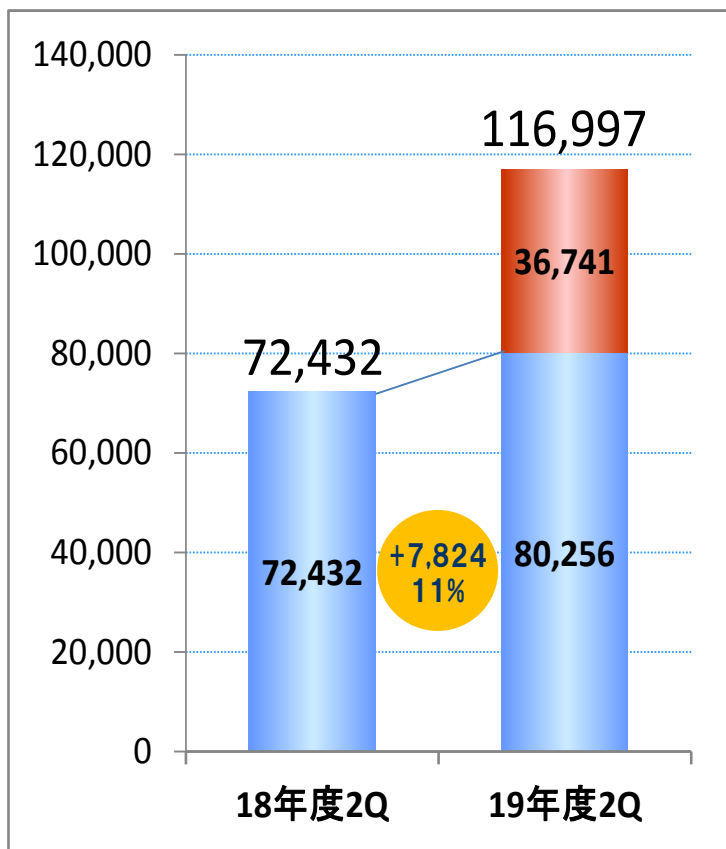


連結営業利益 (単位:百万円)

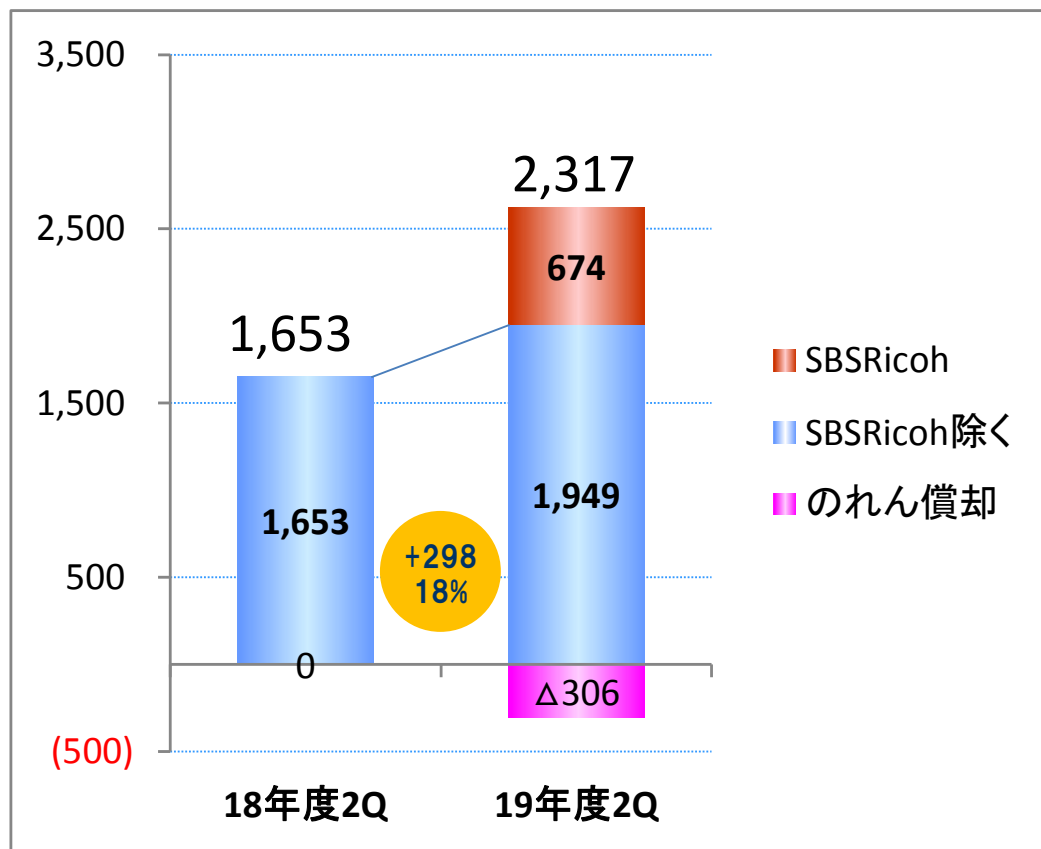


※各セグメント営業利益の合計額に連結消去等の調整をした結果が損益計算書の売上高と、営業利益となります。
 ※営業利益の調整額はそれぞれ2018年は△270百万円、2019年は△0.8百万円です。

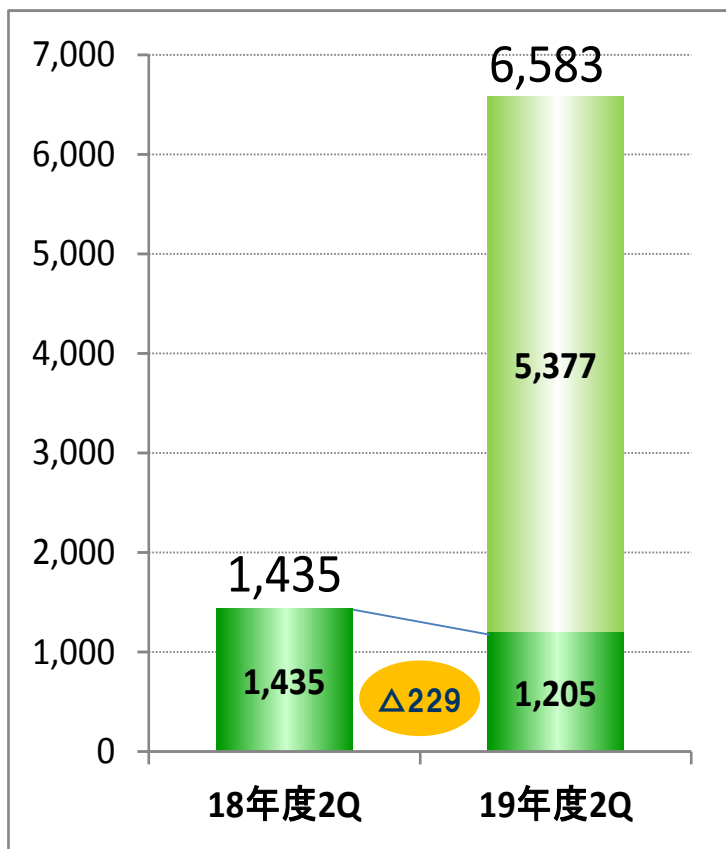
連結売上高 (単位:百万円)



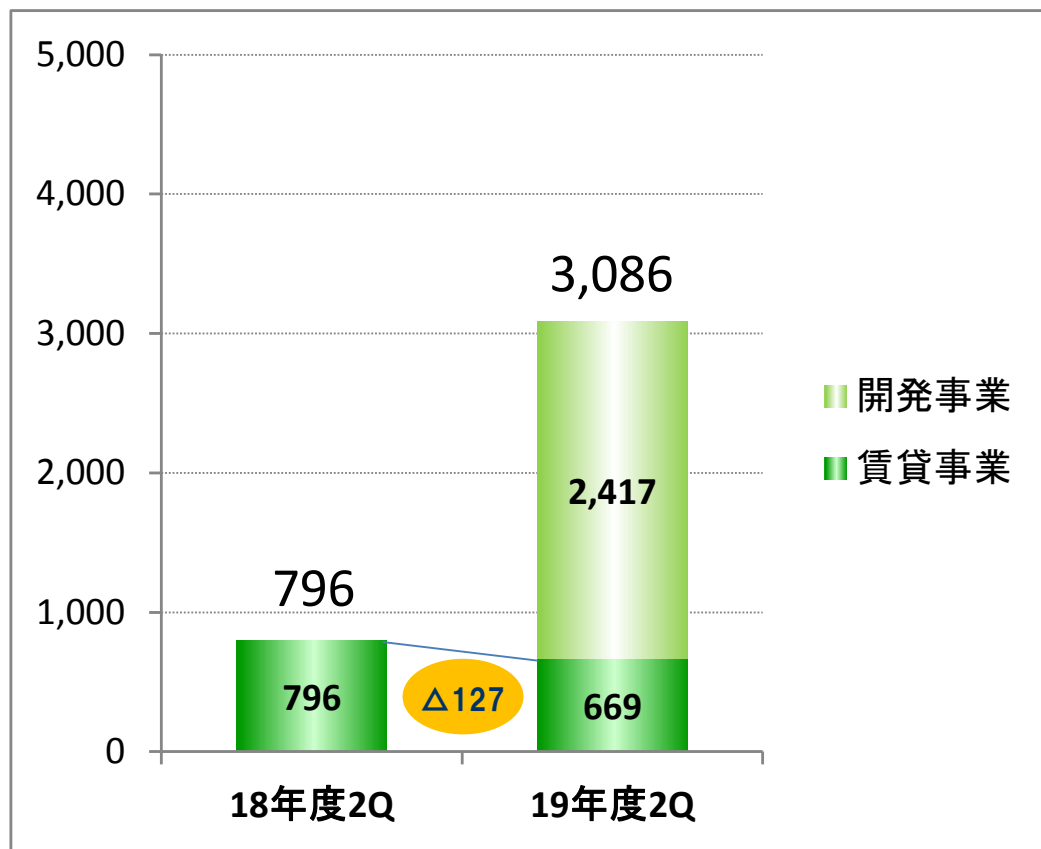
連結営業利益 (単位:百万円)



連結売上高 (単位:百万円)



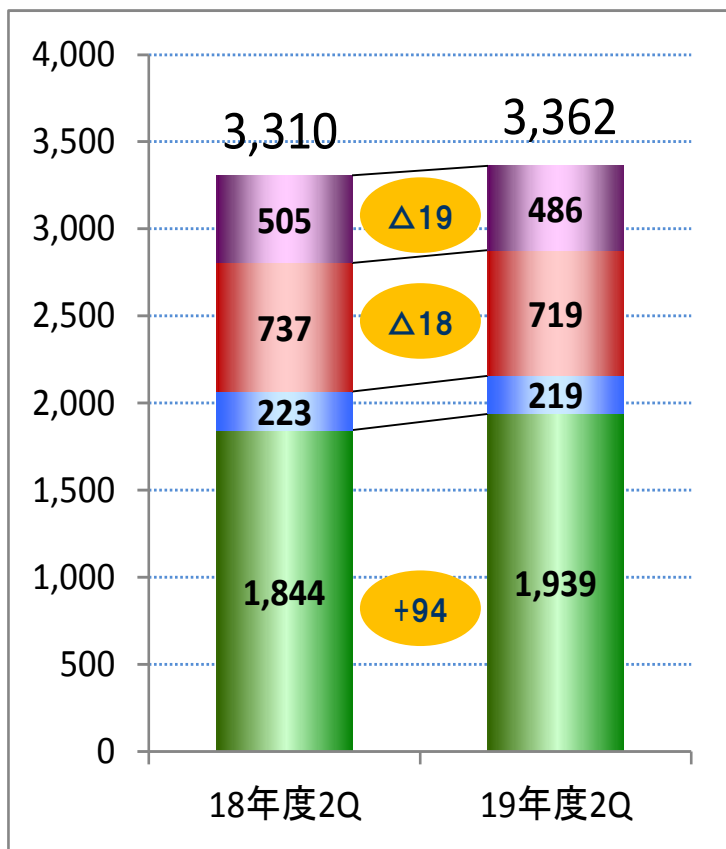
連結営業利益 (単位:百万円)



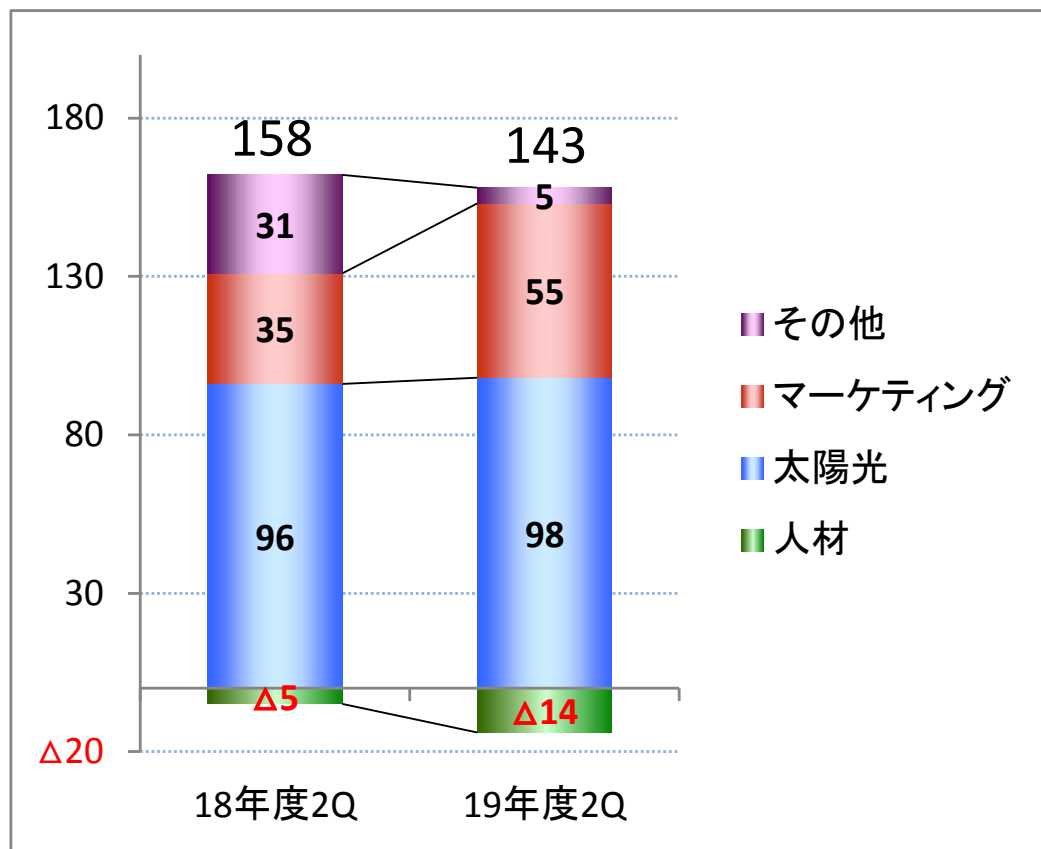
※開発事業 : 自家使用の為物流施設を建設し、リート・ファンドや機関投資家に売却(流動化)する事業。

※賃貸事業 : 保有する物流施設、オフィスビル、レジデンス等を賃貸する事業。

連結売上高 (単位:百万円)



連結営業利益 (単位:百万円)



- その他
- マーケティング
- 太陽光
- 人材

連結貸借対照表の推移

2018年期末



単位:億円

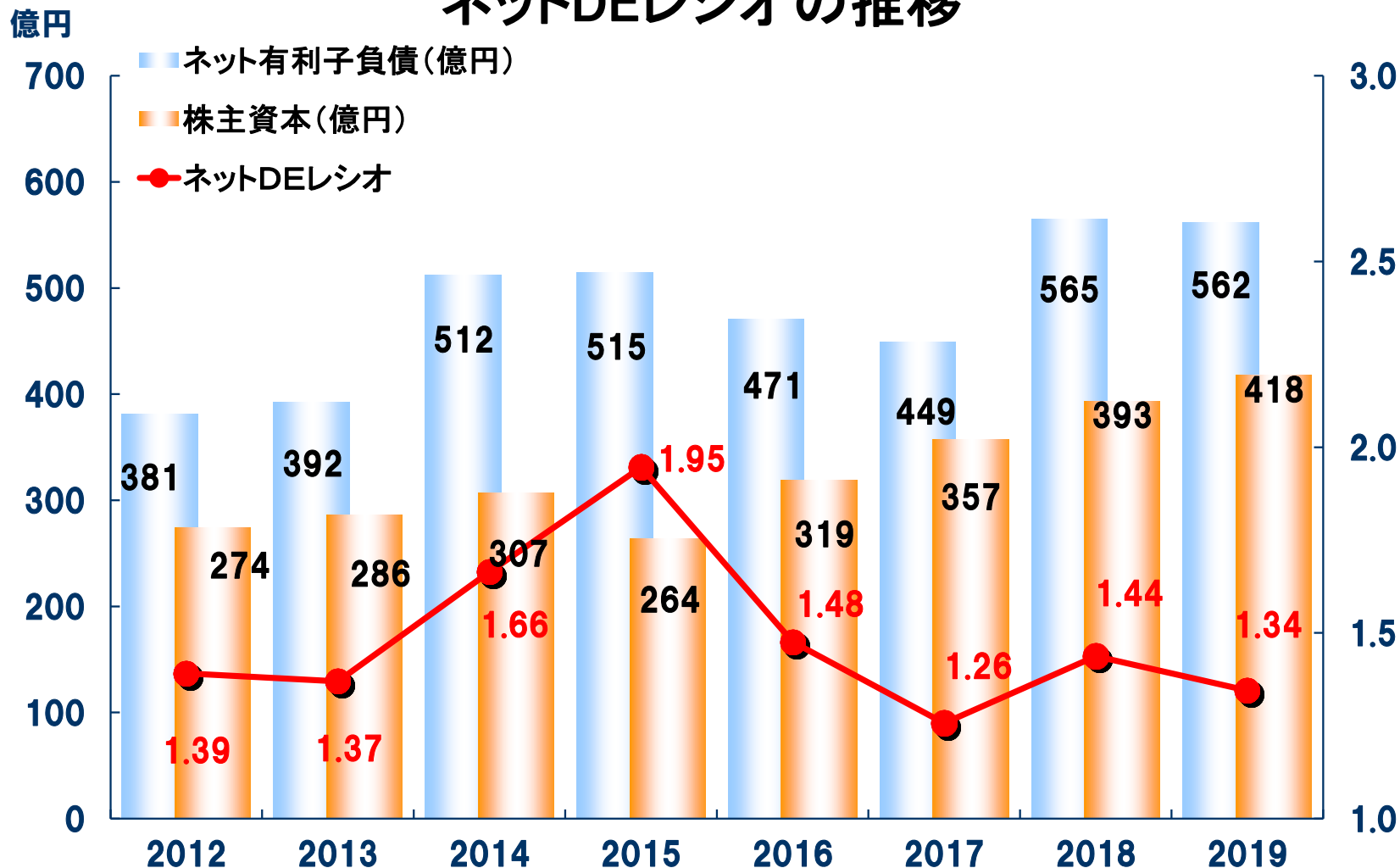
2019年2Q



自己資本比率の推移



ネットDELレシオの推移



(単位:百万円)

	2018年度		2019年度			
	実績値	構成比	予想値	構成比	増減額	増減率
売上高	203,516	100%	250,000	100%	46,483	22.8%
営業利益	8,240	4.0%	9,000	3.6%	759	9.2%
経常利益	7,607	3.7%	8,400	3.4%	792	10.4%
当期純利益	4,409	2.2%	4,800	1.9%	390	8.9%

セグメント別業績予想

14

(単位:百万円)

セグメント		18年度通期 実績値	19年度通期		
			予想値	増減額	増減率
物流	売上高	188,627	234,800	46,173	24.5%
	営業利益 利益率	4,572 2.4%	5,250 2.2%	678	14.8%
不動産	売上高	8,172	7,800	△372	△4.6%
	営業利益 利益率	3,913 47.9%	3,650 46.8%	△263	△6.7%
その他	売上高	6,716	7,400	684	10.2%
	営業利益 利益率	273 4.1%	300 4.1%	27	9.9%

※上記各セグメント営業利益の合計額に連結消去等の調整をした結果が損益計算書の営業利益となります。

※不動産の売上高、営業利益には物流施設の流動化金額を含みます。

※2018年の調整額は△519百万円、2019年の調整見込額は△200百万円です。

※予想値は2019年2月13日に発表したものです。

■ 2019年12月期

- 期末配当

基準日:2019年12月31日

1株当たりの予想配当金:23円

2019年度 グループ経営について

代表取締役社長 鎌田 正彦

■ 現場運営力、輸配送力が評価される

- 営業と現場の連携が強固になり、倉庫開発と3PL案件を組み合わせた提案営業が加速。
- 過去に撤退したお客様からの再受託。

■ 上期の主な稼働実績

顧客企業(業種)	稼働月	社名	拠点(地域)
大手小売業(ドラッグストア)	2月	SBSロジコム	南港
アパレル(カジュアルブランド)	2月	SBSロジコム	印西
ワイン輸入販売	3月	SBSロジコム	南港
日用品輸入販売	4月	SBSロジコム	館林
公社・官庁	4月	SBSリコーロジスティクス	(宮城県)
EC、小売業(アミューズメント)	5月	SBSロジコム	新杉田
通信・インターネット関連	5月	SBSリコーロジスティクス	(川崎市)
製造業(自転車部品他)	6月	SBSリコーロジスティクス	(大阪府)

■ EC通販業向け宅配エリア拡大

- 名古屋地域、上越、東北地域へ。
- 1社依存ではなく、複数企業の業務を展開。

■ 動態管理システムを活用し、車両の稼働状況をグループ全体で共有することで、相互活用を促進



2023年までに、15万坪を増床予定

- 中部地区にて計3万坪の開設を計画。東名阪サービス網を拡充し、大規模3PLへの対応力を高める。
- SBSリコーロジスティクス増床計画は、約5.3万坪。

▼ 開設を予定している物流施設

(2019年7月末時点)

年度	延床面積	(単位:坪)		備考
		賃借	自社開発	
2018(実績)	13,626	11,203	2,423	岩槻、入間、阿見
2019	<u>8,200</u>	<u>8,200</u>	18,537	大阪南港(稼働済)、福岡(9月稼働)、名古屋大高(10月稼働)
2020	18,518	18,518		城南島、横浜金沢(賃借)
2021	15,430		15,430	横浜金沢(開発)
2022	<u>48,000</u>		<u>48,000</u>	野田瀬戸A棟
2023	<u>32,000</u>		<u>32,000</u>	野田瀬戸B棟
検討中	<u>35,000</u>		<u>35,000</u>	中部エリアにて検討中
合計	<u>157,148</u>	26,718	<u>130,430</u>	

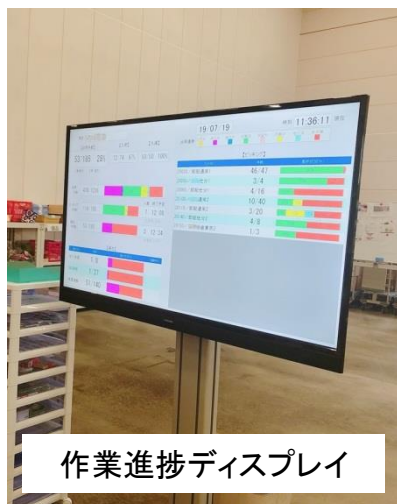
※下線:2018年12月期説明資料から追加・変更となった箇所 ※網掛:稼働済案件(合計面積不算入)

■ 多様なIT機器を試験導入、働く人に優しい職場作りを目指す

- 現場作業員との親和性を重視し活用。
- ラクに、ストレスなく作業ができると作業員の離職防止につながる。

■ 最適な現場設計をめざしナレッジを活かす

- 現場の形態、規模等により、同じ機器でも生産性に違いが生じることから、実際に使用したデータを蓄積、共有する。



■ SBSロジコム「南港物流センター支店」開設

- ドラッグストア、百貨店、ワイン・食品輸入卸販売等の現場が稼働し竣工と同時にほぼ満床(稼働率95%以上)となる。
- 新杉田物流センター(※)に続き、ファインワイン保管に最適な定温庫約800坪を設置。

※新杉田物流センター('16年1月竣工)内に、グループ初の定温庫2,700坪を設置。



名称	南港物流センター
所在地	大阪市住之江区南港南
敷地面積	7,519坪(24,858㎡)
延床面積	18,535坪(61,274㎡)
構造	鉄骨造(一部鉄筋コンクリート造)地上4階
投資額	約100億円
竣工	2019年3月
主要荷主	百貨店、食品・ワイン輸入卸、ドラッグストア等



■ 2棟延床合計8万坪、国内屈指のメガ物流施設着工へ

- 造成工事は計画どおり進捗。(11月末完了予定)
- EC通販企業、SBSリコーロジスティクス等が検討中。確定後A棟着工。
- ワンフロア約1万坪を確保。これによりLT関連設備を導入しやすくなり、生産性の高い拠点設計が可能に。

名称	(仮称)野田瀬戸物流センター		
所在地	千葉県野田市瀬戸		
	合計(A+B)	A 棟	B 棟
敷地面積	約4.1万坪 (136,977㎡)	約2.4万坪 (79,500㎡)	約1.7万坪 (57,477㎡)
延床面積	約8.0万坪 (266,292㎡)	約4.8万坪 (159,590㎡)	約3.2万坪 (106,702㎡)
	着工(予定)	2020年上期	2021～22年
	竣工(予定)	2022年下期	2023～24年

※隣接地の追加取得によるプラン変更有。
 ※上記延床面積には、容積対象外となる部分は不算入。

■ ビジネス現場での協働を推進

- 6月下旬、本社機能をSBSグループ本社へ移転。

■ 物流施設の開設を決定

- 名古屋大高物流センター
- Dプロジェクト東京城南島II
- Dプロジェクト横浜幸浦
- 上記決定案件に加え、愛知一宮物流用地、野田瀬戸物流センター等を検討中。

■ 経営資源の相互利用が活発化

- 旧SBSグループにおける既存業務を、拡大受注。

SBS即配サポートが一都三県で受託している複数のEC通販向けラストワンマイル事業(BtoB含む)を、名古屋、静岡地区で展開。

- 配送車両の繁閑活かし、グループ間にて相互活用。

繁忙期のOAマシン配送に、SBSロジコム、SBSフレック、SBSゼンツウ、SBSフレイトサービスの車両活用。

- ドレー車両の相互活用、海上・航空貨物便の提供。
- SBSグループ共同購入の燃料活用。

情報共有を促進しつつ、徐々にコラボレーション規模を拡大

■ 6月、千葉県内の自動車教習所 2社をM&A

- ドライバー育成をハード面で強化。若手ドライバーの長期育成、現職ドライバーの技能向上を目的とする。
- 運転技能のレベルを可視化することでドライバーのキャリアパスが明確に。評価や目標設定が容易に。
- ドライバーをプロフェッショナル職として位置づけ、相対的なポジションとモチベーション向上を目指す。

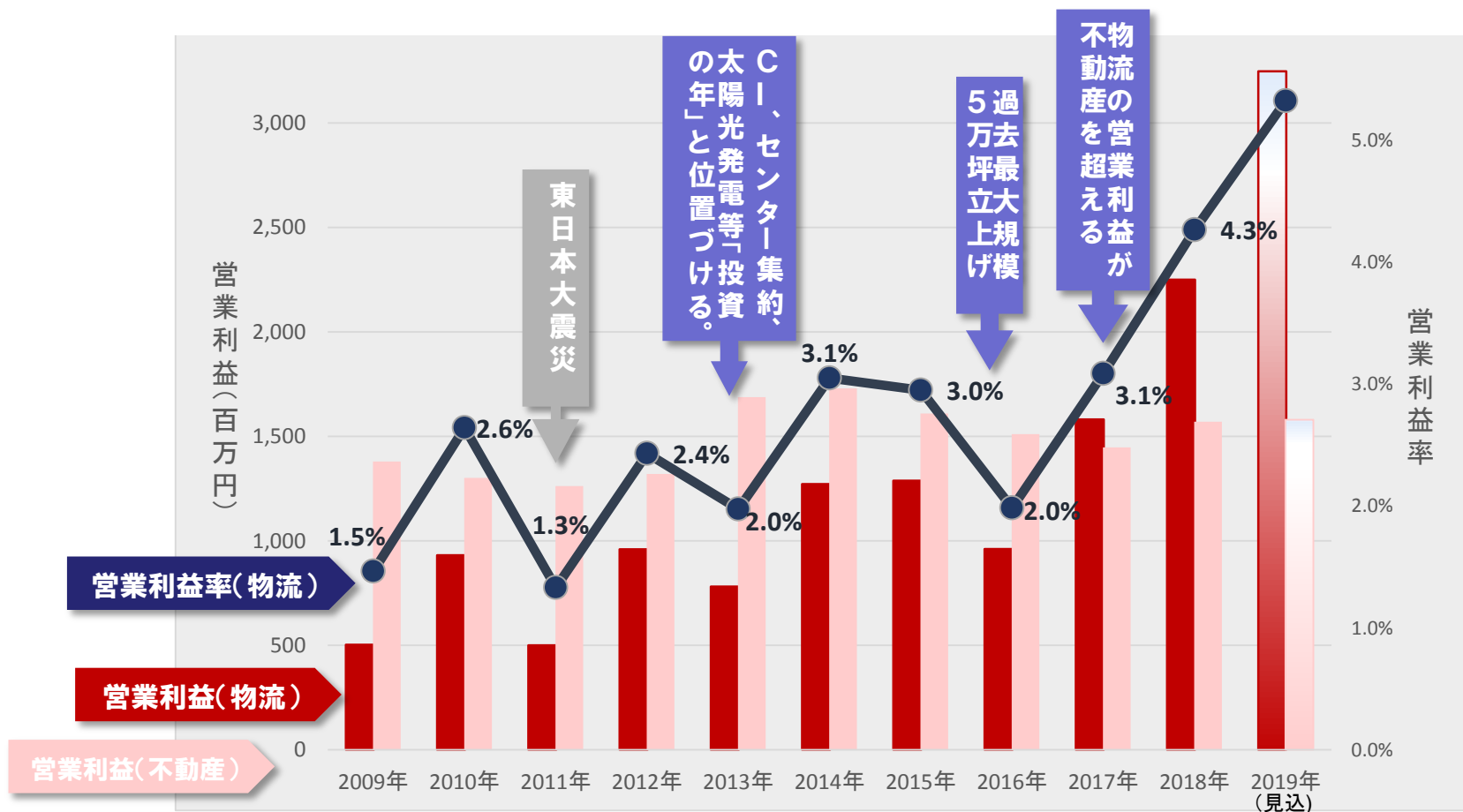
京葉自動車教習所



姉崎自動車教習所



■ SBSロジコムは営業機能を組織化し約10年で、
営業利益は1.5%→4.3%、約3倍に。



トピックス (2) 営業力強化10年の軌跡② 27

投資	<ul style="list-style-type: none"> '07 川越物流センター竣工 '09 野田物流センター竣工 '10 ビクターロジスティクス、エイシーシステムコーポレーションをM&A 	<ul style="list-style-type: none"> '11 日本レコードセンターM&A '12 野田吉春物流センター竣工 '13 社名変更「SBSロジコム」 	<ul style="list-style-type: none"> '16 新杉田、所沢物流センター竣工 '16 印西物流センター(賃借)稼働 '19 南港物流センター竣工 '19 (仮称)野田瀬戸物流センター造成工事
取組み	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 飛び込み、テレアポ、DM、ツール制作など ✓ 3PL営業研修に、現場管理者含め約100名が参加 ✓ HPリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 営業支援システム導入 ✓ KPI設定、承認ルール策定 ✓ 広報誌制作 ✓ 営業組織を拡大再編し、組織営業力強化を目指す ✓ SEO施策 ✓ 受託事例をHPに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 過去最大規模5万坪の立ち上げに臨み、成功と失敗からナレッジを蓄積 ✓ 分析力強化、生産性向上に注力 ✓ 次ステージに向け、課題抽出、戦略構築



■ SBSグループ機能の強化

● 海外事業における連携強化

海外現地法人の再編と並行し、グループ内に点在する海外ビジネスの機能の一体化を推進。

● LT(ロジスティクステクノロジー)部門の強化

倉庫運営のナレッジの共有を推進すると共に、SBSリコーロジスティクスのLT部門を強化。

● ドライバーの育成、安全指導・教育体制を強化

自動車教習所を活用することで、若手ドライバーの長期育成や安全教育体制の拡充を目指す。



SBS GROUP

For Your Dreams.